

vol. 15

2017. 冬

Winter!

健やか

Sukoyaka Gunma

ぐんま

特集

群馬県健康づくり財団 設立30周年 P2-3

「健康サポート事業」を始めます～健康増進室からのお知らせ～ P4

低線量胸部ヘリカルCTのおすすめ～人間ドックの現場から～ P5

財団からのお知らせ P6-7

- 胃がんデジタル検診車を導入しました
- 不妊専門相談センターのご案内
- がんと向き合う作品展、がん患者ミーティングを同時開催しました
- 群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会を開催しました

第4回 群馬県地域保健研究発表会の開催について(演題一覧) P8



群馬県健康づくり

財団設立30周年

平成29年2月10日にホテルラシーネ新前橋で、財団設立30周年記念式典を開催しました。たくさんの方を迎え、和やかな雰囲気の中、記念講演会や式典・記念レセプションが執り行われました。



理事長挨拶

公益財団法人群馬県健康づくり財団 理事長 須藤 英仁

群馬県健康づくり財団は、平成28年12月27日に設立30周年を迎えました。

この記念すべき節目の年を迎えることができましたのも、多くの関係者の皆様に御支援、御協力をいただくとともに、歴代の理事長を始めとする役職員の御尽力によるものであり、厚く御礼申し上げます。

30年の歩みを振り返りますと、当財団は群馬県、県内全市町村、群馬県医師会、群馬県歯科医師会及び旧3団体の出捐により、群馬県民の総合的な健康づくりの拠点として、結核予防会群馬県支部、群馬県対ガン協会及び群馬県公衆保健協会の3団体を統合し、設立されました。

この間、主たる事業である健(検)診・検査におきましては、時代の変化に対応しつつ、県民のニーズに柔軟かつ的確に応えられるよう、より精度の高いサービス提供に努めてまいりました。

また、がん登録、臓器移植推進などの各種事業を県から受託するとともに、且尾健康づくり助成基金の統合等、県事業や公益性の高い事業の一端も担っております。

さらに、平成25年4月に公益財団法人へ移行したことを契機として、がん征圧事業を始めとした疾病の予防・早期発見や健康増進に係る普及啓発事業にも積極的に取り組んでおります。

30周年を契機に、今後も県民の皆様から信頼され期待される財団として、県民の健康づくり・健康増進を推進し、県民が安心して健康に生活できる社会の実現に向けて、役職員一同、決意を新たに、業務に邁進してまいります。

今後とも、皆様から一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

記念講演会

午後3時から、落語家 三遊亭全楽師匠による「笑い与健康」と題した記念講演が行われました。

前半は落語も交えた小気味よいテンポの面白い話に会場は終始笑いに包まれ、後半はお店囃しの「百年目」をたっぷり聞かせてくださいました。



講演会会場

式典・記念レセプション

記念講演会に続いて、午後4時45分から、30周年記念式典とレセプションが行われました。始めに、群馬県健康づくり財団の須藤英仁理事長から主催者として挨拶がありました。次に、職員功労者表彰が行われ、30年以上の永きに渡り職務に精励し、財団に貢献された職員24名が表彰されました。また、来賓の方からお祝いの言葉をいただきました。



知事の祝辞を代読する
塚越県健康福祉部長



橋爪県議会副議長



結核予防会 前川事業部長



予防医学事業中央会 塩澤総務部長



職員功労者表彰 受賞者



レセプション会場

財団シンボルマークに込められた思い



健康で躍動感にあふれる人間をモチーフに、新しい時代の健康と喜び、今後飛躍・発展する健康づくり財団を表現しました。また、三角形は群馬県(上毛三山)を、三辺は栄養・運動・休養の健康づくり三要素を意味します。

その後予防医学事業中央会の塩澤総務部長より乾杯のご発声をいただき、レセプションがスタートしました。

このレセプションには、市町村長をはじめ、群馬県健康づくり財団に関係する200名を超える方々にお越しいただき、普段はなかなか会えない方と顔を合わせて話せるとても貴重な時間となりました。

むすびに群馬県健康づくり財団の村山副理事長が、財団を支えてくださった皆様と群馬県健康づくり財団のますますの発展を祈念して閉会となりました。



村山副理事長

群馬県健康づくり財団 30年のあゆみ



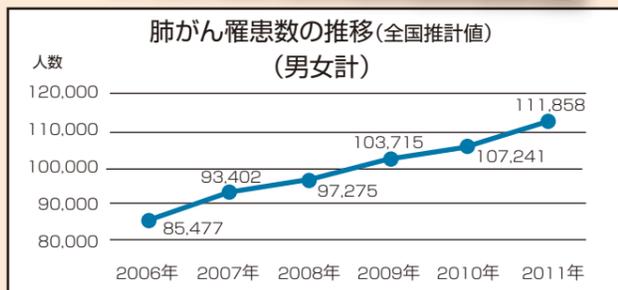
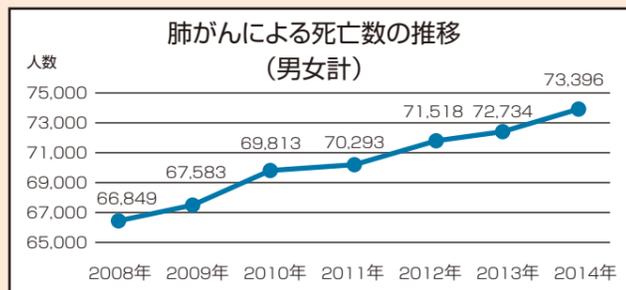
低線量胸部ヘリカルCTのおすすめ

ヘリカルCTとは、身体をらせん状に連続して撮影します。らせん状に撮影することで、胸部のすみずみまで詳細な検査が可能になりました。

現在行われている肺がん検診は、胸部レントゲンと喀たん検査を組み合わせたものですが、早期の肺がん発見には限界があります。これに対してヘリカルCTでは、通常の胸部レントゲンでは発見することが難しい、1cm以下の小さな陰影や薄い陰影の肺がんを発見することが可能です。また、心臓・血管・横隔膜・骨などの影に重なって「隠れている」肺がんも発見することができます。

理由その1：肺がんは増えています！

私たちが低線量胸部ヘリカルCTをおすすめする理由…



資料：国立がんセンターがん対策情報センター

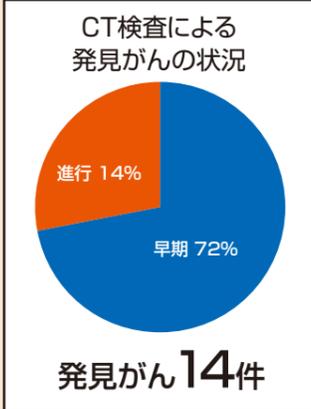
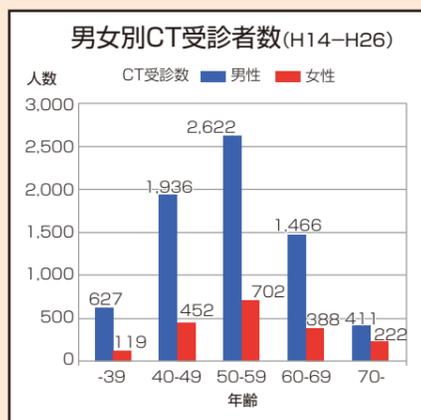
性別	年	1位	2位	3位
		2014年	肺がん	胃がん
	2006年	肺がん	胃がん	肝臓がん
女性	年	1位	2位	3位
		2014年	大腸がん	肺がん
	2006年	大腸がん	胃がん	肺がん

日本の肺がんの罹患数(肺がんと診断される人の数)と死亡数は増え続けています。

肺がんは男性のがん死亡の1位、女性では2位となっています。



理由その2：当財団での胸部ヘリカルCT検査の実績から (H14~H26年)



発見された14件の肺がんのうち、早期8件、進行1件の合計9件については、胸部レントゲンでは「異常なし」でした。つまり、胸部レントゲンでは小さくて通常では発見不可能な肺がんを低線量胸部ヘリカルCTでは発見することができたのです！

発見された14件の肺がんのうち、72%にあたる10件は早期がんでした。早期の肺がんの5年生存率はがんの種類にもよりますが、80%以上です。

理由その3：当財団では肺がんCT検診認定機構推奨の撮影条件にて低線量撮影を実施しています。

一般的な胸部CT検査の1/3程度(約2ミリシーベルト)で撮影しています(シーベルト:Svとは放射線防護に用いる線量単位)

参考:日本平均の自然放射線量は年間約2.1ミリシーベルト、胸レントゲンは0.01ミリシーベルト(放射線医学総合研究所)

ぜひ一度低線量胸部ヘリカルCTを受けてください。

健康づくり財団の日帰り人間ドック、各種検診のオプション検査としてお受けいただけます。(税込10,800円)

お問い合わせ・各種検診・検査のお申し込み 予約受付時間：午前9:00~午後5:00(土日、祝日、年末年始は休み)

電話：027-269-7813《完全予約制です》

平成29年4月から新たに「健康サポート事業」を始めます

人は健康な心身と快適な職場により、安心して働くことができます。そして、働く人が健康であることは、企業にとって大切なことです。

働く人の心身の健康を維持することは企業の責務ですが、働く人一人ひとりの取り組みも重要になります。

群馬県健康づくり財団では健康診断後の事後指導やストレスチェックの実施等、働く人の健康管理のサポートをおこなっていますが、この度、新たに「健康サポート事業」として皆様の健康づくりをよりきめ細かくサポートしていくメニューを揃えました。

現在、モデル事業を行いながら、平成29年4月の本格稼働に向けて準備中です。

今後の皆様の健康づくりに是非ご活用ください。

【健康サポート事業のメニュー】

(1) 総合支援事業(1年を通してトータル的に保健師がサポートします)

- ① 職場環境づくりの支援
- ② 従業員への支援:(例)健康相談など
- ③ 健康管理担当者、人事労務担当者、管理監督者、産業保健スタッフへの支援(例)産業保健計画策定の支援など

(2) 個別支援事業(職場の健康づくりとしてオプションでご利用いただけます)

- ・ 特定保健指導
- ・ 健康診断後の事後指導
- ・ 集団健康教育(保健・メンタルヘルス・運動・栄養のメニューのご提供)

*医師・保健師・健康運動指導士・管理栄養士・臨床心理士による講演

(例)「たばこ健康～禁煙成功のポイント～」

「運動ってなぜ大切?」

「職場におけるメンタルヘルス対策」

「生活習慣病予防の食事」など

*その他、様々なメニューを揃えています。



*職場の健康づくりをお考えの企業のご担当者様は、是非ご連絡ください。

*詳細につきましては、別途お知らせいたします。

お問い合わせ ☎027-269-7814 群馬県健康づくり財団事業推進課健康増進室

群馬県がん患者団体連絡協議会から

「がんと向き合う作品展」「がん患者ミーティング2017」

同時開催しました！

平成29年2月3日(金)・4日(土)、群馬県立図書館3階研修室で「がんと向き合う作品展」を開催しました。患者会の皆さんが熱心に取り組んでいる写真や書道、絵画、工芸、手芸など様々な作品が80点ほど並びました。作品を見た方たちに、がんになっても前向きに、自分らしく生きていく…そんな想いを届けられたのではないのでしょうか。



また、4日(土)は、3階ホールで「群馬県がん患者ミーティング2017」を開催しました。今回は群馬県がん患者団体連絡協議会発足10周年記念として、井上ひさしの名作、読み語り芝居「父と暮せば」を上演しました。主演は地元ラジオの司会者で、肺がんサバイバーでもあるヨロコンデぶっちさん。ぶっちさんと娘役花澤町子さんのユーモア溢れる独特の語りに、会場はたくさんの笑いと涙に包まれました。



群馬県臓器移植

院内コーディネーター研修会を開催しました

平成29年2月9日(木)、群馬県健康づくり財団6階大会議室で、今年2回目となる群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会を開催しました。前橋赤十字病院・太田記念病院で行われた脳死下臓器提供2事例の症例検討の後、「組織提供について」というテーマで東京歯科大学市川総合病院角膜センター・アイバンクの青木大氏が講演しました。その後グループワークで各病院の移植や透析に関する情報交換や、来年度の院内における活動計画などを話し合いました。



胃がんデジタル検診車を導入しました

検診の精度向上を図るため、胃がんデジタル検診車(ひまわり26号車)が平成29年1月19日に納車されました。

胃がんデジタル検診車としては3台目です。これまでの検診車よりも車体がコンパクトになっていますが、待合室や撮影室は今までの検診車と同じ広さを確保しています。これから、ひまわり26号車はコンパクトな特徴を活かし、都市部の狭い道や山間部など、県内各地で疾病の早期発見のために活躍していきます。



不妊専門相談センターのご案内

ひとりで悩まないで、まずはご相談ください

最近では、妊娠のための活動「妊活」という言葉も使われ始めましたが、妊娠を望まれる夫婦で、避妊をしないで夫婦生活を送りながらも子供に恵まれないのは珍しいことではありません。不妊症に悩むカップル・夫婦の数は年々増加し、現在では10組に1組を上回ると言われています。赤ちゃんが授からないと、いろいろ心配になったり、不安な気持ちが湧いてくるもの…。

不妊専門相談センターでは、女性産婦人科医師が妊娠や不妊にまつわる不安や情報の整理を一緒に行い、すこしでも安心して治療が受けられ、自分らしい選択ができるような支援をさせていただきます。ひとりで思い悩まずに、一度お話に来てみませんか。

具体的な相談内容

- もしかして、赤ちゃんができにくいのかな。そろそろ病院に行ったほうがいいのかな？
- 不妊の検査や治療は、どんなことをするのか？
- いつまでこの治療を続ければいいの？
- 治療がうまくいかず落ち込んでしまう。今の気持ちを聴いてほしい。
- 治療と仕事の両立について
- 2人目を希望しているがなかなかできない
- 流産が続いたが、不育症の検査を受けたほうがいいの？
- ご夫婦・ご家族の方々との関係 など

予約受付・お問い合わせ先

相談：予約制 費用：無料

相談日 毎月第1・第3木曜日(月によって変わる場合があります。お問い合わせください)

10:00～10:50

11:00～11:50

13:30～14:20

14:30～15:20

予約受付時間

月曜日～金曜日
(祝祭日を除く 9:00～17:00)

☎ 027-269-9966 (専用ダイヤル)

平成28年度（第4回） 群馬県地域保健研究発表会の開催について

日時・場所 平成29年3月15日(水) 13:00～16:00 群馬県庁28階281会議室

平成29年3月15日、群馬県庁において標記研究発表会が開催されます。

この会は、研究発表を通じて地域保健の向上を図り、県民の健康増進に寄与するため、また、保健従事者の交流を目的として群馬県と財団が主催するものです。

一般の方もぜひご来場ください。

NO	演 題	発 表 者
1	市町村保健師が行うがん予防活動の現状と課題	群馬大学大学院保健学研究科 菊地 沙織
2	群馬県健康づくり財団における胃がん検診の現状 - 診療放射線技師の立場から -	群馬県健康づくり財団 塩原 龍彦
3	集団検診における胃部エックス線検査の現状と課題 ～禁忌事項等により検査に至らなかった受診者の状況～	群馬県健康づくり財団 齊藤 純子
4	群馬県内市町村のがん罹患率の較差	群馬県健康づくり財団 茂木 文孝
5	渋川及び利根沼田保健所管内の保育所・幼稚園におけるインフルエンザアウトブレイクの特徴：施設アンケートからみたアウトブレイク発生要因の検討	渋川保健福祉事務所 田中 裕加
6	結核接触者健診の対象範囲を定量化により評価する試み 一病院・高齢者施設・事業所の接触職員167人の検討から一	利根沼田保健福祉事務所 小池 幹義
7	VNTR解析結果の完全一致事例に対する追跡調査の可能性の検討	桐生保健福祉事務所 高久 順子
8	VNTRパターンが一致した患者間に疫学的関連性が認められた事例	館林保健福祉事務所 江口 奈々
9	本学定期健康診断における外国人留学生に関する一考察	東京福祉大学 大学院 澤口 彰子
10	高次脳機能障害者と家族の教室～群馬県こころの健康センター15年の取り組み～	群馬県こころの健康センター 西沢 茉莉
11	精神保健業務連絡会議について一課題解決のために一	群馬県こころの健康センター 白石 成美
12	高崎市におけるCKD対策の新たな試み	高崎市保健所 大木 祥子
13	地域(西部)における野菜摂取の現状 「もっと野菜を350(さんごーまる)プロジェクト」～高校生への食育推進～(第2報)	富岡保健福祉事務所 多胡 智美
14	高齢者サロンに参加する高齢者の食品摂取の多様性について	高崎健康福祉大学 五十嵐美絵
15	当施設における過去5年間の腸内細菌検査状況	群馬県健康づくり財団 横堀 伸也